

## 2014 世界耐久選手権技術規則の明確化

各位

2014年世界耐久選手権 EWC クラスにおける技術規則の明確化についてご案内いたします。

施行：即時

### 2.3.6 タイヤ

タイヤは公認時のものから変更することが認められる。

#### 1) 要件

スリックタイヤとハイウェイでの使用不可（NHS）と明記されたタイヤを除いて、マニファクチャラーはタイヤに下記のマークをつけなくてはならない：

- DOTマーク、および／あるいはEマーク（“認証タイヤ” またはハイウェイでの使用にのみ可能と記されたタイヤ）
- マニファクチャラー名
- 製造年（コードで）
- タイヤの寸法
- スピードレーティング
- タイヤを正しく使用するために必要なその他の特徴

#### 2) 装着

- タイヤは適切なリムに装着されなくてはならない。
- リムは変形していたり、損傷してはならない。

#### 3) 許可される最低速度

スーパーストックにおける最低スピード分類： (w)

#### 4) タイヤ表面のトレッド・パターン

トレッド・パターンに制限はない。

トレッド・パターンは、タイヤを製造する際にマニファクチャラーによって専

用に作られるものでなくてはならない。

トレッド・パターンの選択は、個々のライダーの選択に一任される。

スリックタイヤまたはWETタイヤ（適切な場合）の使用もライダーの判断に基づくものとする。しかしながら、状況が難しいものとなった場合には、ライダーはタイヤ・マニファクチャラーの薦めを考慮し、さらに必要な場合には、タイヤ・マニファクチャラーの適切な代表者の意見を考慮しなくてはならない。

安全性の観点から、レース前の車検の時点で、パターン全域に関するタイヤ・トレッドの深さは最低 2.5mmとする。

レース前の車検の時点で、トレッドの深さが 1.5mm以下のタイヤは、トレッドなしのタイヤとみなされ、スリックタイヤに適用される規制が適用される。

スリックタイヤの表面には、120° あるいはそれ以下の間隔で3個以上の孔（くぼみ）が開けられる。これはタイヤの中央部、およびショルダー（肩）部の磨耗の限界を示すものである。タイヤの異なる部分における孔が最低2個磨耗している場合、ライダーはトラックに入ることが認められない。

#### 以下は本規則より削除される

~~ウェットタイヤは、96%ポジティブ及びマイナス4%ネガティブ（ランド&シールシオ）のポジティブ及びネガティブトレッドを持たなければならない。タイヤ表面からトレッドエレメントの50%までの最大寸法は35mmなければならない。~~

疑義が生じた場合、FIMエンデュランステクニカルディレクターの決定を最終のものとする。

### 5) フォーミュラ EWC におけるタイヤ規制

#### 5.1 レースのためのタイヤ本数

レースに使用するスリックタイヤの最大本数は、如何なるタイプ[例リヤまたはフロント、スリック、ライトインターミディエイト、ミディエイト（フルウェットタイプのタイヤは含まれない）]も各チームに大会期間中に下記のとおり準備されなければならない。

24時間レースの場合：45本（2015年より30本）

12時間レースの場合：23本（2015年より15本）

8時間レースの場合：15本（2015年より10本）

6時間レースの場合：11本（2015年より9本）

各タイヤの割り当ては各タイヤマニュファクチャラーがチームまたはライダーに対して行うものとする。タイヤには全てチーム毎に個別のマークが付けられる。

## 5.2 クォリファイブラクティスのためのタイヤ本数

- 12時間または24時間レースの場合、各チームはクォリファイブラクティスで最大9本のタイヤを使用することができる。
- 6時間または8時間レースの場合、各チームは最大7本のタイヤを使用することができる。

## 5.3 クォリファイブラクティス及びレース中：

1. チームに選出された各ライダーは、マーキングされたタイヤ（FIM ステッカー）のみクォリファイブラクティス及びレース中に使用することができる。
2. タイヤの仕様はそれぞれ異なる。
3. タイヤはライダーが車両とともにピットレーンを離れた時点で使用済みと判断される。
4. 本タイヤ規制は新規サーキットには適用されない。2014年に関しては、全サーキットにこの規則が適用される。

以下は本規則より削除される

~~クォリファイブラクティス毎に各ライダーにはタイヤ2本が割り当てられる。~~

~~このタイヤは当該クォリファイブラクティスで使用されなければならない。~~

~~未使用のタイヤは、ライダーがタイヤ供給会社に変換しなければならない。~~

~~タイヤの仕様は異なる場合がある。~~

~~タイヤは、ライダーが装着してピットを離れた時点で使用されたと判断される。~~

このタイヤ規制は新規サーキットには適用されない。

（2014年は全てのサーキットで本規制が適用される。）

## 6) タイヤコントロール方法

1. 大会期間中に使用される各スリックタイヤは、オフィシャルが番号を指定したステッカーによりマークされなければならない。ステッカーは異なる色を使用する。

クオリファイプラクティスが始まる1日前、フルウェットタイヤに関する仕様がタイヤマニュファクチャラーより FIM テクニカルディレクターに報告される。(事項 5.1 も参照)

2. 特別タイヤステッカーは封印された封筒に入れられ、第1回プラクティスの前日にチームに配布され、それ以降の使用に関してはチームが責任を有する。
3. 両方のステッカーはフロント及びリアタイヤのサイドウォールの同じ側左側に貼り付けられなければならない。オフィシャルは、ピットレーンに存在する全ての EWC 車両にステッカーが貼付されているか確認する。
4. このオフィシャルステッカーが貼付されていない車両の使用がある場合、即座に適切な対応を行う審査委員会に報告される。

~~未使用のタイヤは、ライダーがタイヤ供給会社に変換しなければならない。~~

5. ステッカーの破損や貼り付けに不備のある場合等の例外的な状況の場合、FIM テクニカルディレクションの判断により最大 2 枚までの追加が認められる場合がある。損傷したステッカーは FIM テクニカルディレクターに返却されなければならない。当該タイヤの確認をしなければならない。

更なる詳細情報は4月24日のマグニーコアサーキットの聖名ルームにてチームマネージャーブリーフィング時に発表される。

チャールズ・ヘネカム  
耐久テクニカルディレクター